



TR-Q6 C/N/S JINBEI TTL/HSS スマートトリガー (Canon/Nikon/Sony用)

JINBEI TR-Q6 をご購入いただき、誠にありがとうございます。本取扱説明書には組立、安全なご利用に関する大切なご案内が記載されています。本書を熟読の上、正しくご利用下さい。また、お読みになった後は大切に保管し、必要な時にお役立て下さい。なお、本書の無断転載・2次使用を固く禁じます。



安全の為に確認下さい

- ▲ 可燃性液体が接触する可能性のある環境、雨天時や水中のご利用、保管は禁止です。
- ▲ 強磁界、及び粉塵の多い環境でのご利用、保管は避けて下さい。
- ▲ 結露を防ぐため、温度変化の激しい場所や炎天下の車中などでのご利用、保管は避けて下さい。
- ▲ 電池をセットした状態の長期保管はおやめください。液漏れによる破損の原因になります。
- ▲ 筐体内への金属パーツの混入等にお気をつけ下さい。
- ▲ 濡れた手や濡れた布で製品に触れないで下さい。
- ▲ 代理店以外による分解、改造、修理は禁止です。これらの形跡が認められた場合、保証期間は無効になり全ての保証対象外となります。
- ▲ 被写体の至近距離での発光は健康被害を引き起こす恐れがあります。絶対におやめ下さい。

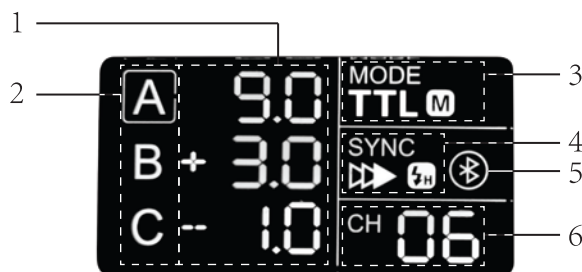
その他 利用上の注意

◆各部のネジは締めすぎないようにご注意ください。ネジが破損する場合があります◆ホットシューへの着脱はロック状態を確認しながら過負荷を避けて下さい◆小さいお子様の手の届かない環境で運用してください◆電池は消耗品です。定期的な交換をおすすめします◆ご使用方法や環境次第ではスペック通りの性能が引き出せない場合があります◆オムニバスを含む弊社契約店以外からのご購入品は国内で使用できません。

各部名称



※スリープボタンの表記は機種により異なります (HEAD 表記など)。



- | | | | |
|-------------------|-----------------|---|---|
| 1. 出力値 / TTL補正值 | 9.0 | マニュアルモード: 1.0(最小)~9.0(最大) | 6 |
| | +3.0 | TTLモード: -3.0~+3.0(ストロボの設定値を基準) | |
| 2. グループ:A / B / C | A
B +
C - | 同一チャンネル内の3グループを個別制御可能。
同一グループへの灯体登録数に制限なし | |
| 3. モード | MODE TTL M | マニュアルモード M / TTLモード TTL | |
| 4. シンクロモード | SYNC | 先幕シンクロが初期値。ディスプレイ表示無し
後幕シンクロ
ハイスピードシンクロ(シャッター速度1/8000秒) | |
| 5. Bluetooth | Bluetooth icon | SYNCボタンを1秒以上長押し。別途要アプリ | |
| 6. チャンネル | CH 06 | 最高15チャンネル(CH01-CH15) | |

※CH00は「AU」と表示され利用できません

クイックガイド

STEP0 ストロボ本体の無線機能を有効化、カメラブランド、チャンネル、グループを設定

STEP1 リモコンをカメラに接続、電源ON (電源ボタン長押し)

STEP2 チャンネル設定 (ストロボと同一)

STEP3 グループ選択 (A~C, 設定したいストロボのグループ)

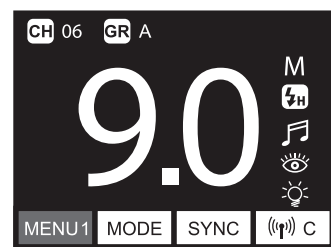
STEP4 モード選択 (マニュアル/TTL)

STEP5 シンクロモード選択 (先幕/後幕/HSS・FP)

STEP6 出力調整・テスト発光 (TESTボタン/シャッター)。



TR-Q6 画面表示



HD-610 画面表示

- ◆同一チャンネル上のグループは全て同調します。但し、スリープ状態のグループは発光しません。
- ◆選択状態のグループのみ、調光・各種設定が可能です。

操作・ボタン詳細機能

STEP1 電源ON/OFF



電源ボタンを1秒以上長押しすることで電源のON/OFF。省電力モード^{※1}移行時点での設定値が反映されます。(単4アルカリ電池2本使用)
※1. 未操作が15秒程続くと省電力モードに移行し液晶が暗くなります。未操作が30分続くと自動的に電源が切れます。

STEP2 CH設定



チャンネルボタンを押してCHアイコンを点滅させます(選択状態)。[+]または[-]ボタンでチャンネルを選択します。01~15チャンネル^{※1}までを設定でき、同じチャンネル内の全てのグループを同調させます。^{※2}
※1. CH00はAUと表示され、2017年現在は無効なチャンネル。
※2. スリープモードのグループを除く。

STEP3 GR選択



GRボタンを押してグループを選択します。押す毎にA、B、Cを循環選択出来ます。選択中のグループは□で囲われます。選択中のグループのみ、調光や各種設定が可能です。

STEP4 MODE選択



MODEボタンを押して動作モードを選択します。選択しているグループの灯体について、マニュアル(M)モードかTTLモードを選択できます。

STEP5 SYNC設定



SYNCボタンを押してシンクロモードを選択します。選択しているグループの灯体について、先幕^{※1}、後幕、ハイスピードシンクロ^{※2}の何れかを選択出来ます。SYNCボタン長押しでBluetooth有効。別途スマートフォンアプリと接続可能。^{※3}

※1. 初期状態は先幕シンクロ。アイコン表示無し。
※2. Nikon機はカメラ側にてオートFPモードにておくことで、HSSモードに自動移行するためボタン設定は不要。
※3. アプリ利用は動作保証対象外。(2017年現在)

STEP6 調光・TEST



[+]または[-]ボタンで出力を調整します。マニュアルモードの時は、0.1EV単位、または1EV単位で調光が可能^{※1}。TTLモード時は0.3EV単位で6EVの間で調整が可能です^{※2}。TESTボタン、またはカメラのシャッターを切ってストロボが発光することを確認します。発光しない場合は、手順を再度ご確認ください。

※1. 調光ボタン長押し。
※2. ストロボのTTL補正値を基準として-3.0~+3.0まで。

その他



選択グループの灯体をスリープモードに移行できます。画面には「SL」と表示されます。スリープモードの灯体は同調・操作出来ません。

選択グループの灯体のモデリングランプをON/OFF出来ます。画面表示はありません。

スペック

リモコンモード	マニュアル調光、TTL調光	シンクロ方式	JINBEI TR方式(技適204-720305)
対応機器	DM-5、HD-610、MARS-3	チャンネル	15チャンネル(01-15)
調光範囲	9f-Stop(9.0-1.0、0.1ステップ)	グループ	3グループ(A-C)
シンクロスピード	最高1/8000秒(HSSモード)	サイズ	92(L)×60(W)×40(H)mm(突起部含まず)
電源	単4アルカリ電池2本	重量	100g(電池除く)

故障かなと思ったら

▼電源が入らない

・新品の単4アルカリ電池をご利用ください。一部ニッケル水素電池は端子形状の都合上、接触不良となる他、電圧不足により起動出来ない場合があります。

▼シャッターを切ってもストロボが光らない。

・リモコンの電源状態、電池残量、カメラへの接続状態を確認して下さい。
・ストロボの無線モードを有効にして下さい。
・ストロボの無線モード(カメラブランド)とリモコンのカメラブランドを揃えて下さい。
・ストロボがスリープモードになっていないか確認して下さい。
・Canonのカメラで本製品を使用する際は、カメラを下記設定にしてください。
■LV静音(ソフト)撮影「しない」
■HDRモード「オフ」

▼ストロボが発光したりしなかったりする。

・チャージが間に合わない、スタンバイからの復帰時など、稀に不発が起こります。故障ではありません。
・現在設定しているチャンネルを変更して下さい。CHが近いと混信することがあります。
・リモコンの電池残量が少ない場合があります。電池を新品に変えて下さい。
・近くに電波を発する機器がある、ストロボと距離が離れている、間に遮蔽物がある場合等は原因を取り除いて下さい。

▼閃光モード(FREEZE/NORMAL)について

・閃光モードはリモコン単体で設定できません。予めストロボ側で設定して下さい。
・閃光モード設定はHSS時に強制解除されます。

▼ストロボは光るが、画面の一部が暗くなる。

・カメラ固有のシンクロスピードを超えたシャッター速度になっています。シャッター速度を遅くするか、HSSモードをご利用下さい。

▼連写が出来ない、追従しない

・ストロボ本体の出力が大きすぎると、チャージが間に合わず連写出来ません。
・リモコンの電池残量が少ない可能性があります。電池を新品に変えてお試下さい。

▼TTL/HSSが機能しない。

・ストロボの無線モード(カメラブランド)とリモコンのカメラブランドが揃っているか確認して下さい。
・カメラ側の外部ストロボ設定やシンクロモードを確認して下さい。
・リモコンのHSSモードが有効になっていることを確認してください。
・後発の最新カメラの場合、動作しない場合があります。ファームウェアの更新をお待ちください。
・カメラとリモコンの電源を入れる順番を変えてお試しください。

▼TTL調光が不安定、明るい、暗い

・TTL調光は、被写体の反射光を測定するため環境により精度がばらつきます。
・TTL調光は、カメラ機種、メーカーによって制御が変わるため精度がばらつきます。
・ストロボ本体側でTTL調光補正をかけていないか確認して下さい。

▼HSS時の光量が暗い、出力を下げられない、色温度が高い

・ハイスピードシンクロ時は実行光量が通常時より小さくなります。
・HSS時のストロボ出力下限値は次の通り制限されます。
HD-610=4.0 / MARS3=6.0 / DM-5=4.0
・ハイスピードシンクロ時、FREEZEモード時は色温度が高くなります。

▼リモコンの設定が反映されない、出力値が一致しない。

・HSSやドライブモードにより、出力値が制限される事があります。
・各モードからの復帰時において、リモコンとストロボの出力値が一致しない場合があります。リモコン上で出力変更操作をして、出力値をストロボに反映させて下さい。

▼CHとIDが点滅しながら表示が入れ替わる

・「MODE」ボタンと「CH」ボタンを同時押ししてCH表示にしてください。

▼カメラの連写モードについて(Canon機など)

・カメラのドライブモードが「連写」の時、ストロボの最大出力値が制限されます(3.0、2.0等)。その際、ストロボの出力値はリモコン側のモニターに反映されませんのでご注意ください。